東北ブロック

1.プログラム詳細

11 月 11 日（火）

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶（内閣府） 来賓挨拶（青森県）
10:40～11:40	60	講演① 「こどもの交通行動と発達の関係」 稲垣具志 （東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授）
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演②「交通ボランティアの育成と活性化」 村山敏夫 （国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科　人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修）
13:40～13:50	10	休憩
13:50～14:50	60	活動事例発表
14:50～15:40	50	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評（コーディネーター） 稲垣具志 （東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授）
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

2.講義等の記録

■講演①

東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授

稲垣 具志

「こどもの交通行動と発達の関係」

〇子どもの交通安全の現状

子どもの事故抑止に向けた動向

・少子化の進む日本

・通学路緊急合同点検の実施

・生活道路の安全対策の必要性

⇒ハード・ソフトともに「子どもを危険から守る」スタンスが多い。

小学生歩行時の道路種別死傷者数（全国　R5）

国道：4.8%

主要地方道：8.8%

都道府県道：9.4%

市町村道：73.2%

その他の道路：3.7%　　合計 3000 人

⇒市町村道での事故が約 7.5 割

　身近な道路で発生しやすい

小学生の交通事故は、国道や県道よりも市町村道（生活道路）で多く発生しており、特に横断中の事故が目立つ。国道や県道では一般的に親が運転する車に同乗していて事故に遭って怪我をするケースが多く、市町村道の狭い道路では横断違反や飛び出しによる事故が多い。

生活道路では、国県道など幹線道路での対策（信号機や矢印信号など）が通用しないため、ハンプ（道路の隆起）やボラード（車道を狭く見せる柱）などの対策が取られている。

これらの対策は効果的だが、住民からの反対意見（騒音や不便さなど）も多い。

また、住宅街全体を対象にした「ゾーン 30」（区域速度制限）などの新しい速度規制も導入されている。

子ども達の安全を守るためには、生活道路での対策が重要であり、地域住民や行政が協力して取り組む必要がある。

〇子どもの事故の発生状況

歩行者事故の歩行者違反別死傷者数（全国　R5）

15 歳以下（n=4336）

信号無視：1.9%

通行区分：1.1%

横断違反：4.5%

飛び出し:19.8%
その他の違反：12.5%
違反なし：60.3%
歩行者違反ありが 39.7%、飛び出しが 19.8%
⇒横断時の課題

〇交通安全対策・教育の現状
・交通安全教育の現状
　模擬空間での交通安全教育⇒永年変わらない
　近年の新たな教育手法（スケアード・ストレイト、あやとりぃ）

・子どもの横断特性に関する知見
　子どもの飛び出し事故の原因
　危険予測能力の欠如
　心理的特性、身体的特性　　例）チャイルドビジョン
　認知・判断・行動

〇交通安全教育の新たな課題
子どもの横断判断特性の実態が不明
⇒道路横断時の判断能力を把握
　判断状況に応じたアドバイス
↓↓↓
新たな交通安全対策・教育に結び付く知見

〇横断判断実験の実施
小学校の低学年（2 年生）と高学年（5 年生）の児童、及び成人を対象に、信号機や横断歩道のない交差点での道路横断判断能力を調査した
対象者：
　2 年生：12 名（1 名欠席）
　5 年生：13 名
　成人：13 名（高齢者を除く）

　実験環境：
　日没による視認性低下を避けるため、日没前に終了
　所要時間は 1 人あたりおよそ 1 時間
　小学校近くの生活道路（幅 3.5m）で実施。信号機や横断歩道のない交差点

実験方法：

参加者に「横断できる」と判断した際にボタンを押し、車両が近づいて「横断できない」と判断した時点でボタンを離すという形式で十数回実験を行った。車両の速度は、試験車両については 20km/h、30km/h、40km/h の 3 パターンで設定され、その車両の速度を基にした横断判断能力を測定。車両の速度はビデオカメラによる画像解析で正確に算出した。

実験結果

1. 成人の結果

成人の多くは、車両の速度が速くなればなるほど判断距離を長く取る傾向が見られた。相関係数（車両速度と判断距離の相関強さを示す指標）は 0.41～0.96 と高く、適切な横断判断ができていることが確認された。

ただし、一般の成人は速度に応じた判断ができておらず、ばらつきが見られた。

2. 2 年生の結果

2 年生の結果は全体的に散々たるものであった。車両の速度に関係なく、ほぼ一定の距離（10～15m）でボタンを離す傾向が見られ、車両のスピードを考慮した判断ができていないことが明らかになった。相関係数は-0.18～0.64 と非常に低く、適切な横断判断ができている子どもは皆無であった。

3. 5 年生の結果

5 年生は 2 年生に比べて改善が見られたものの、ばらつきが大きい結果となった。相関係数は-0.33～0.92 と幅広く、成人並みに適切な判断ができる子どももいれば、全くできない子どもも存在した。中央値は 0.60 と成人（中央値 0.73）に近づいているものの、全体的なばらつきが課題として浮き彫りになった。特に相関係数が低い方のばらつきが大きいことに留意すべきである。

4. 統計的な比較

中央値：

2 年生：0.21

5 年生：0.60

成人：0.73

2 年生は全体的に低い得点統一されている一方、5 年生は得点のばらつきが大きく、個人差が顕著であった。

〇上記実験で横断における誤判断率

渡れないと判断した時に仮に横断した場合、車両と衝突した割合（誤判断率）を算出

高速車両（30km/h 超）に対する誤判断を集計

・誤判断率 80%以上、60%以上とともに小学生における割合が高い

・特に 2 年生は参加者 3/4 が誤判断率 60%以上であった。

低速車両(30km/h 以下)に対する誤判断の集計
・誤判断率 60%以上:2 年生で 33%　5 年生で 38%
・誤判断率 60%～80%以上では 5 年生の割合が少し高い
・成人でも致命的な誤判断あり

子ども達は成人と比較して、車両速度と関係なく判断する
・車両速度に対する判断調整は、成長に伴い向上・安定
・5 年生で成人と同程度の能力も見られる
・高学年においては能力がバラツキやすい
誤判断しやすい
・高速車両の誤判断率が高まる
・低速車両に対しても判断を誤りやすいケースあり

〇求められる安全教育・対策
横断判断の発達状況に合わせた段階的な教育手法
高速車両:車両の速度抑制
低速車両:ドライバーへの情報提供、見通しの確保
⇒子どもの能力の特性・限界の情報共有と具体的行動が必要
子どもを取り巻く環境の現実
自分の行動を選択する場面は避けられない
交通社会に潜む、ならず者の存在
⇒高速度の抜け道利用、一時不停止の車・自転車…
自分で自分の身を守るセンスが必要
正しい行動を選択する能力
⇒「ルール守ると、ルールが守ってくれる」は基本原則
　交通状況に合わせた判断能力も大切
実際の現場で養う自衛力→「過保護」とならない安全教育

横断判断を指導する人は？
学校やイベントでの安全教室は仮想空間⇒非日常的
⇒まちの中の実際の場所で教えられるのは、
その場に一緒にいられる人⇒保護者・地域住民

〇子どもの交通安全に関する保護者の認識と行動についての調査結果例
保護者の認識ギャップ
保護者に対して、子どもの交通状況における認知・判断・行動能力についてアンケートを実施。例えば、小学 2 年生の子どもが正しく横断判断できるかという質問に対し、多くの保護者が「できている」と回答したが、横断判断の実験では実際には「0 人」であることが判明。この結果から、保護者の認識と実態に大きな差異

があることが明らかになった。
意識改革の効果
情報提供後に再度アンケートを実施したところ、90％の保護者が「子どもの判断能力は思っていたよりも危険」と認識を改めた。99％の保護者が「今後は意識的に横断判断の指導を行う」と回答し、意識改革が成功した。

ドライバーとしての行動変化
保護者がドライバーとして生活道路を運転する際、子どもの特性を意識して運転する意向が 97％に達した。子どもがいなくても生活道路ではゆっくり走ると回答した人も 85％に上り、交通安全への意識が高まった。

〇商店街にある魚屋さんを巻き込んだ実験エピソード
実験：
魚屋の店主が下校中の子ども達に「交差点は危ないから気をつけて」と声をかけてもらった。声掛けの有無による子ども達の行動を隠しカメラで観察し、子ども達が交差点で左右を確認する行動を記録し、分析を行った。
結果：
声かけなしの場合：子ども達の 64%が交差点で安全確認を行わない。
声かけありの場合：安全確認を行わない子どもの割合が 27%に減少。
能動的に左右を確認する子どもの割合：声かけなしでほぼ見られなかったが、声かけありでは約 30%に増加
地域住民による声かけは、子ども達の安全確認行動を大幅に促進する効果があることが確認された。魚屋の店主は当初「意味がない」と感じていたが、結果を知り、地域の子ども達の命を守る重要性を実感した。

〇子どもの安全意識を持続させるためには
① 断続的な安全イベント
　キャンペーン、シンポジウム、安全運動…
② 持続的な安全教育
　家庭、地域、校外委員の役割、協働は必須
これらを支える、学校・家庭・地域の連携と協働が重要である。

■講演②

国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科
人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修
村山　敏夫

「交通ボランティアの育成と活性化について」

1. 現場（フィールド）に出ることの意義と課題発見力

「旅に出ない者は本を 1 ページしか読まないのと一緒だ」という言葉通り、交通安全の原点は現場にある。教科書を読み、授業を受けているだけではイメージは湧かない。現場に行って初めて見えることがある。学生には「現場に出て課題発見力を磨け」と説いている。課題発見力とは、現場を分析し、目的や課題を明らかにする力である。課題には以下の 3 つの型が存在する。

発生型：

ヘルメット着用率が全国最下位である、信号のない横断歩道で車が止まらないといった、既に数字や現象として現れている課題。

設定型：

「事故ゼロ」というゴールを設定した瞬間に見えてくる、人手不足や広すぎる担当地域といった、理想と現実の差から生じる課題。

潜在型：

一人で考えていても気づけない、視点や角度を変えてみて初めて見えてくる課題。

これらを整理するためには、一人で抱え込まず、仲間と集まって話をすることが不可欠である。

2. 「シビックプライド」と幸福の相関関係

交通安全活動の根底にあるのは、自分たちの街を守りたい、地域を大切にしたいという「シビックプライド（地域への誇りと愛）」である。自分たちの地域を愛しているからこそ、人生を通した使命感（ライフミッション）が芽生える。

データによれば、SDGs（持続可能な地域づくり）に取り組んでいる住民ほど、自身の「幸福度（ウェルビーイング）」が高いという結果が出ている。よって、交通安全活動は、単なるボランティアではなく、住民自身の幸福に直結する活動となる。例えば長野県のように、横断歩道で止まってくれた車に対し、子どもたちが「ありがとうございました」と挨拶をする。こうした教育の連鎖は、地域への信頼を育み、「この街に住み続けたい」という深い愛着を生む。

3. 社会的信頼（ソーシャルキャピタル）の再構築

コロナ禍において、感染者が責められ、居場所を失うという悲劇が起きた。しかし、日本社会が本来持っていた力は「同調圧力」ではなく、人と人との繋がりである「ソーシャルキャピタル（社会関係資本）」であったはずである。

人は本来、本能的に「人と繋がりたい」という欲求（繋合希求性）を持っている。その繋がりにおいて重要なものは、以下の要素である。
益者三友（えきしゃさんゆう）：
　正直な人、誠実な人、博学な人。こうした良き友を持つことが、自己の成長には欠かせない。
集合的効力感：
　人と繋がっている実感が喜びに転換され、「この仲間となら目標を達成できる、成長できる」と確信できる強い信念。

交通安全の現場で交わされる「おはよう」「久しぶり」といった何気ない世間話は、決して無駄ではない。
JAXA の閉鎖環境試験においても、プロジェクトの成否を分けたのは高度な技術論ではなく、実は「日常会話ができる人間関係」であった。

4. 科学が証明する「繋がりの健康効果」
ボランティア活動を「暇があっていいね」と揶揄する風潮もあるが、事実は全く異なる。中国での修行で得た「健康でなければ意味がない」という教訓、そして心臓病患者の調査データが示す通り、「心配してくれる人が二人以上いるか」で、倒れた後の生存率は劇的に変わる。
孤立しがちな高齢者、特に男性こそ、交通安全という目的のある繋がりを持つことが、結果として自分自身の健康や長寿に繋がる。皆さんが活動で見せる「楽しそうな背中」は、自腹を切ってでもボランティアに参加する今の若者たちの心を動かす、最強のメッセージとなる。

5. 有機的連帯
カルビーが新潟県粟島の豆（一人娘）でお菓子を製造した際、農家の高齢化による人手不足を救ったのは、全国から集まったボランティアであった。ここで大切なのは、全員が同じ作業をすることではなく、各自が異なる役割を果たす「有機的連帯」である。

・ポスター作りが得意な学生にチラシ製作を頼み、その成果を褒め、正当に評価する。
・地域を熟知したベテランが、現場の生きた知恵を次世代へ伝える。
・企業（ホンダカーズ等）が学生と共にゴミ拾いを行い、その過程で街の危険箇所を共有する（UX デザインの視点）。

重要なのは自分一人で頑張りすぎて重荷に感じることではない。自分にできることできないことを整理し、できないことは他者に委ねる。この機能的な繋がりこそが、組織に持続的な活力を与える。
皆さんが今日得た知識を「学んでおしまい」にせず、周囲に公言し、共に行動に移してほしい。その「楽しそうに活動する背中」が新たな仲間を惹きつけ、地域全体のウェルビーイングを向上させる。皆さんの培ってきた能力を「得意分野」として地域に還元し、事故の起こらない持続可能な社会を構築していくこと。それこそが、今求められている真の交通安全活動の姿である。

■活動事例発表

青森県交通安全母の会連合会会長

大坂　美保

皆様こんにちは。本日は八甲田山も初冠雪を迎える季節となりました。本日は東北ブロックの皆様、ようこそ青森にお越しくださいました。青森県交通安全母の会連合会会長の大坂でございます。それでは早速、青森県の活動を発表させていただきます。青森県の加入状況でございますが、本来は 40 市町村ですが、青森市内の方に警察署が 2 つございまして、その関係で 41 になります。こちらが青森県の加入状況となっております。青森県内の 40 県内の市町村と 1 ブロックが合計 6 つのブロックに分かれております。まず東青ブロック、中弘南黒ブロック、三八ブロック、上十三ブロック、西北ブロック、むつ・下北ブロック 6 つの方に分かれております。

こちらは第 56 回令和 7 年度の定時総会の写真でございます。まず、市町村長と会長様に加え、関係者約 80 名規模で行います。男女共同参画の視点で、母の会からレディースサポートやみんなの会と名称を変えて活動しているところもございまして、時代の流れにのっとり規約も変更しております。

こちらは県内 700 人規模で行われます青森県大会です。県内から大型バスに乗って駆けつけていただき、大人の交通安全研修会の様子です。ある町では、青森市内のホテルでおいしい昼食を召し上がっておられます。県大会をとても楽しみにされているところもございます。タイトルは「未来へつなぐ交通社会～命を守る行動は今、私たちから～」ということにしました。講談では「私と川柳」と題しまして、川柳の基本的な内容をお話ししていただき、私と講師による「川柳で交通安全！」という鼎談を行いました。

こちらは第 15 回みんなですすめよう青森県キャラバン隊の内容でございます。青森県は全国でも稀な交通安全キャラバン隊を行っております。出発式から始まり、2 日間の行程で青森県警・青森県・JAF 様のご協力をいただきながら 2 日間をお借りしております。こちらはキャラバン隊の出発式の様子です。青森県は、県内において知事からの交通安全メッセージを伝達しながら、小学校に出向き、交通安全教室を行っております。この出発式の様子ですが、園児たちがとても可愛らしく、ピッピ体操をするのが恒例でございます。そして、園児の見送りでキャラバン隊が出発いたします。キャラバン隊の内容でございますが、暗幕テントの中で反射材の効果を確かめたり、そのすごさを児童に確認してもらったりしておりました。なかなか体験できない白バイの乗車体験は、乗車の順番を待つ人気のブースとなります。夢は白バイのおまわりさんということで、交通安全教育がキャリア教育の一環にもなっておりました。

こちらは青森県警様のご協力、そして JAF 様のご協力で「県警ふれあい号」「動体視力等の診断・人気のシートベルトコンデンサー」です。JAF さんのシートベルトコンビンサーは低速ですが、急ブレーキの後はどうなるかを自ら体験し、乗車した子どもたちから歓声が聞こえます。シートベルトの大切さがよくわかるようです。

続きまして、青森県庁におきまして反射材の展示会を行いました。来庁者に実際に手に取っていただき、県下全市町村母の会が、地域をめぐって高齢者世帯や子育て世帯に交通安全を呼び掛け続けております。こちらは第 52 回ブロック研修会です。昨年も 3 ブロックで実施し、各地区の皆様が熱心に研修を行い、交通安全の必要性を再認識しておりました。

続きまして、こちらは毎年 11 月に行います県内の交通安全のリーダー的存在の方々に集まっていただきますリーダー研修会です。今年も 11 月 19 日に開催する予定でございます。こちらの内容は交通安全の研修会ということになっております。

続きまして、寄付金でございます。県からの補助金と会員からの会費だけでは運営を賄いきれませんので、

たくさんの団体からご寄付をいただき、賛助をありがたく活用させていただいておりました。今年は 10 年ぶりにクロネコヤマトの音楽の宅急便でお集まりの皆様からたくさんのご寄付をいただいておりました。こちらの真ん中の文化会館の方で行われました。

私ども新入学児童には、毎年リーフレットを寄贈しております。こちらがそのリーフレットの内容でございます。

次にストップマークの貼付活動、反射材の配布活動でございます。ストップマーク貼付と反射材活動は、今年は青森市の交通安全協会、問屋町支部より大型のストップマークを市内の小学校に寄贈していただきました。写真では小さくて見えにくいかもしれませんけれども、パンダのマークでとてもかわいらしいストップマークになっております。加えまして、青森港は年間 40 隻以上のクルーズ船が寄港しておりますので、観光客や海外の方にも反射材を差し上げ、とても喜ばれております。

それでは、今後の活動の課題ということでございます。高齢化と継承者がいないということ、そして人員の動員が難しく、活動する人が限られております。さらに、新規加入者が入会しないというのは、他団体との掛け持ちがあるということです。助成金が年々減少する傾向ではございますが、今後できる範囲で活動を続けながら行っていかなければいけないと思っておりました。

最後になりますが、命を守る活動を共に進めてまいりましょうということで終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

上小阿仁村交通安全母の会副会長

原田　眞貴子

皆さん、こんにちは。私は秋田県上小阿仁村交通安全母の会副会長を務めている原田眞貴子と申します。私が紹介する事例はどこの地域でも行っている事例だとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

この写真は令和 6 年 3 月秋田県飲酒運転追放等競争において 3 年間連続 1 位ということで表彰された時の写真です。その後また違反があったりして最下位に転落しましたが、現在はまた上り調子で 1 位をキープしているところです。

はじめに、上小阿仁村って皆さん知らないと思いますので、簡単に紹介したいと思います。上小阿仁村は秋田県の緑の部分ですね。ほぼ中央に位置しております。南北にちょっと細長い村ですけれども、ここ中央に 285 号線、国道の 285 号が通っています。ということで、交通量は非常に多いです。特に大型、青森から秋田に抜ける道としては、最短のルートでここを必ず通るという大型車が多くて、交通量も非常に多いです。

そして村の自然として有名なのがコアニチドリという山野草です。これは朝ドラでよくやっていた牧野万太郎さん、植物学者である牧野富太郎博士が名付けたと言われております。鳥と付くので、私たちもちっちゃい頃は飛ぶ鳥、小鳥かなと思っていたのですけれども、実は違って白い花や薄紫の淡い色の小さな花が、蝶や飛ぶ鳥のように見えるということで、コアニチドリという名前を名付けたそうです。

それから上小阿仁村は天然秋田杉の里としても知られてきました。これはコブ杉といって森の 100 選に選ばれております。最後の下の写真は万灯火という伝統行事です。春彼岸 3 月 21 日にこういう丸いタオルとかをくくった玉に灯油を湿らせてそれに火をつけると、こういう風に灯ります。それが火を灯し、先祖の供養をするという伝統行事になっております。これは集落ごとに行われていますが、どこも高齢者になりまして、継続者がいないということは悩みの一つで、今は高齢者を私たち世代が頑張っているところです。

続いて村の人口は 1696 人、高齢者は 1001 人、高齢化率は 59%。これは令和 7 年 7 月 1 日の秋田県調査統計からです。秋田県一の高齢村になっています。秋田一ということは、もしかして全国 1 位の高齢

村かもしれません。ということで概要、「交通安全は家庭から」ということで今進めております。設立は昭和 48 年 7 月 22 日、今年で 52 年目になりました。会員は 274 名、上小阿仁村婦人会が母の会として活動を展開しております。

続いて活動を紹介いたします。活動 1 として、高齢者世帯支援事業です。警察署、老人クラブ、各集落、行政の連携で行われています。こちらは運転時歩行時の注意事項について警察官から講話をいただいているところです。そして、右の方に移りまして、これも警察署と連携して危険予測体験型トレーニングと行って、今流行りのいろいろな機材を持ち込んでシミュレーションをして体験するというトレーニングを行いました。

そして、下の方の写真ですけれども、特殊眼鏡をゴーグルのような感じでメガネをかけて飲酒運転体験をしています。隣も同じメガネをかけての体験でしたけれども、目が回ってまっすぐ歩けないとか、よろけるという体験をしました。

続いて、子育て世帯支援事業です。これも保育園、警察署、行政の連携で行われています。毎年、保育園訪問を行い、独自の交通安全教室を開いております。令和 6 年には防犯教室を開きました。「いかのおすし」というのをやりました。会員の方は啓発資料の配布、そして 7 年度は独自の交通安全教室、交通ルールについて勉強しようということで、園児と、それから参加者、会員の方々、みんなで一緒に勉強しようという教室をやりました。この中で交通ルールとは何ですかと聞いたら、なかなか分からなかったのですけれども、交通ルールとは、道路を使う全ての人が守らなければいけない決まりだよと。その道路を使う人って誰だろうということで質問を投げかけたら、「車が通ります」とか「クロネコヤマトが通ります」「トラックが通ります」そういうふうに積極的に声を上げて、楽しく教室が終わることができました。

続いて活動 3 に入ります。街頭キャンペーンを紹介します。こちらも警察署、行政、小学校、保育園との連携で行っています。6 年度のキャンペーンでは、小学生手作りのメッセージカードを添えて、ドライバーさんに「気をつけて運転をお願いします」などと声かけ運動を実施しました。

7 年度のキャンペーンも同じように行いましたが、今年度は秋田県警のマスコット「まもるくん」。この青い服を着たキャラクターですね。と村のマスコット「こあぴょん」も駆けつけてくれ、みんなが喜んでいたということがありました。そして、秋の交通安全運動期間は右側の写真です。保育園児と一緒に街頭に立って、「安全運転をお願いします」と声かけ運動を行いました。小さな子供たちの元気な声に、ドライバーさんも思わず笑顔を見せてくれました。何を行うにも私たちは様々な団体との連携は欠かせませんでした。平成の市町村大合併があった時、村は単独村を選択したために、保育園も 1 園、小学校も中学校も 1 校と、そういう連携の取りやすさはありました。

成果と課題、活動を通して会員同士のつながりが生まれると同時に、交通安全に対する知識関心が高まりました。行政や関係機関との連携が太くなり、様々な事業への協力体制が充実してまいりました。交通災害共済加入のための訪問活動は、地域とつながっていく機会となっております。ご近所付き合いによる地域づくりの一助になっていることは間違いありません。

続いて課題に入ります。課題は、会員の高齢化による減少、役員のなり手不足になっています。それゆえ、他団体や地元集落との協力体制づくり、母の会だけで進むのではなく、他を巻き込んで共に取り組もうとする体制づくりは、人口減少や高齢化率の高い地域には必須だと考えております。

もう 1 点、若い人を巻き込む工夫、努力、これは保育園とか小中学校の PTA 組織との連携を模索しているところです。母の会イコール婦人会である。初めは賛助会員から、急がず徐々に興味ある分野から働きかける。得意とする分野から働きかける。周囲と関係性を深めていくことで、若い世代にバトンが繋がっていく

ことを期待しております。拙い発表、最後までご清聴ありがとうございました。失礼します。

岩手県交通安全母の会連合会理事
高橋　純子

岩手県花巻市から参りました高橋と申します。拙い発表ですが、どうぞよろしくお願いいたします。
平成 18 年に旧花巻市石鳥谷町、大迫町、東和町が合併して現在の花巻市が発足しました。人口は 8 万 8000 人で、県内 5 番目の規模となり、岩手県のほぼ中央に位置し、東西には山々が連なり、季節ごとに変化に富んだ自然風景が広がり、美しい町です。西側には花巻温泉郷が広がり、国内はもとより海外からお客様をお迎えしております。

8 地区の母の会で構成され、会員数は 6000 人となります。また、花巻市といいますとメジャーリーグで大活躍しております大谷翔平選手などの出身校である花巻東高校もあります。私も OG です。これで忘れないと思います。他に観光といえば、神楽や獅子踊りなどの郷土芸能。日本代表当時の一つ、南部杜氏、裂織、ホームスパン等のすぐれた技術が多く伝えられております。そして「雨ニモマケズ」でご存知の宮沢賢治さん、萬鉄五郎さん等の世界的に知られる詩人を輩出しております。

それでは、母の会連合会が取り組んでいる活動の一端をご紹介いたします。春秋の交通安全活動に伴う通学路交差点での街頭活動をシルバー部会と小学 4 年生に手伝っていただいております。「夏の一服一休運動」、「夏の交通事故防止県民運動」期間中に暑さなどによる過労運転の防止、夏休み中の子供交通事故防止等の目的で高速道路のインター出口、大型店舗で街頭啓発活動をしております。高齢者宅訪問活動として講習会などに参加したい高齢者宅を訪問して反射材を配布しながら、夜間外出は気をつけることを呼びかけております。

交通安全年賀状作戦は冬休みの子供たちに参加してもらい、年賀はがきに交通安全の思いを込めて作成していただき、おじいちゃん、お父さん、お母さんに運転気をつけてねとメッセージを送ります。年賀状は 12 月中に出しますが、私たちはこれをコピーして大型店舗とかに 1 か月間展示します。お客さまにも呼びかけております。岩手県内で 8 月に交通死亡事故が相次ぎ、9 月 5 日に知事名で交通事故非常事態宣言が 18 年ぶりに発令されました。私たちは、「交通安全は家庭から」をスローガンのもとに、「事故に遭わない」「事故を起こさない」をモットーに活動しておりますが、これからも継続して取り組んでまいりたいと思います。

最後に、岩手県花巻にマルカン食堂という場所があるのをご存知でしょうか。テレビなどで話題になったお店です。地元の人なら一度は食べたことがある 25 センチほどのソフトクリームであります。有名な場所です。一時は閉店に追い込まれましたが、今は復活しております。

岩手県花巻市に観光に訪れた際は是非寄ってみてください。ちなみにこれで 370 円です。これからも私たちは大谷選手のように仕事と交通安全の二刀流で頑張ってまいりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

宮城県交通安全母の会連合会
佐々木　和恵　熊谷　安子

只今から宮城県の代表として私、県の会長をしております佐々木でございます。はじめに言い訳になりますけれども、本日、私達の地域で村田町という小さなテントのある町で毎年交通事故が発生しておりましたけれども、この 2 年ほどで、令和 6 年と 7 年になってから無事故達成で県警から表彰を受けて益々張り切

っていますという会長さんですけれども、風邪で倒れてしまって、朝この会場で知りました。

それで代理で発表する方も風邪をひいて声が出ないということで、宮城県で東京の次にインフルエンザが横行して、県内の小中学生、それから私たちのような高齢者がマスクを外せない状態で、学級閉鎖なども続いて大変な状況でございます。私もこのガラガラ声で、先ほど見せてもらった原稿をところどころ要所をつまんで、代理で村田町の交通安全班母の会連合会の事例発表をお話しさせていただきますことをお許しくださいませ。それでは始めたいと思います。

初めに、今日村山先生のご講話をいただいて、私一昨年、全国の交通安全協会、全国の交通大会、東京でありました時に、ちょうど宮城県が司会進行の担当に当たっていまして、初めて全国大会の総合司会をしてきましたけれども、安全協会の発表者と交通安全母の会の発表者と 2 名ですかね、その代表発表の総合司会をさせていただきまして、大変心強いお話を聞いて、東京の母の会の会長さんも道路に出て、高齢で会員数が減っても頑張ろうね、頑張ろうねって、いろいろな人形を作ったりね、運転手さんにものを配ったりして、一生懸命頑張っている姿のお話をお聞きしてきて、大変心強く勉強して帰ってまいりました。

その経験から申し上げて、サインサンクスと言って、県警の方から横断歩道を渡って渡る時には笑顔で運転手さんにニコッと笑って挨拶しようね。そして走らないで歩いて渡り終わったら振り向いてニコッと笑って運転者さんと目と目を交わしてありがとうと手を振って、そして学校に向かおうねと。そういうお話を受けまして、今年で 4 年目になりますけれども、最初は順調に進んでいましたが、校長先生、教頭先生が変わったりすると、またその指導に手が行き届かなくて、おしゃべりして走って回って、横断歩道を渡ったりしている姿がまた多くなって、もう一回気持ちを引き締めて声がけをしていかないといけないと思ってお聞きいたしました。頑張りたいと思います。

初めに村田町の紹介をさせていただきます。村田町は宮城県の南部に位置しておりまして、仙台市など 3 市 4 町に隣接しています。東北地方と関東地方、仙台方面と山形方面を結ぶ古くからの交通の要衝であり、現在も東北自動車道村田インターチェンジ・村田ジャンクションなどによりその役割を果たしているそうです。

明治 28 年、村田町が町制を執行し村田町となり、昭和 30 年に村田町、沼辺村、富岡村の 3 町村が合併した町でございます。今年度は記念すべき町制施行 130 年、合併記念 70 周年を迎えたという町でございます。人口は年々減少傾向に見られ、令和 7 年 4 月末現在で 9703 人、世帯数は 4117 世帯、60 歳以上の高齢者の割合は 39.19％と高齢化が進んでいる町でございます。

次に交通安全母の会連合会についてちょっとお話しさせていただきます。昭和 57 年の 6 月 8 日に設立いたしました。令和 6 年度の会員数は 2046 名となっており、25 地区から構成され、この母の会の皆さんは女性防火クラブと兼務しての活動となりますので、年間大変忙しい日々を過ごしているということを私も時折耳にしております。

それでは次に、春秋の交通安全運動の取り組みについてです。こちらは出発式と人垣作戦の様子で、朝の運動通学時間に合わせて交差点で町長、副町長、議長、教育長、大河原警察署長、交通指導隊、交通安全協会村田支部母の会などの関係団体が全部参加して啓発活動を行っているそうです。

母の会はドライバーに啓発グッズを配布し、交通安全を呼びかけております。今日は啓発用品の現物をお持ちして、張り切って発表する予定でしたけれども、グッズも手に入りませんでした。見ていただきたかったのですが、グッズは村田町公式キャラクターくらりんの巾着袋でございます。くらりんの反射材ポケットティッシュを入れたものを配っているそうでございます。町のセーフティ交差点での啓発活動の様子です。関係団体や小中学生も参加し、役場前、小学校前、信号機のない交差点、交通量の多い交差点で交通安全を呼び

掛けているそうです。

夏の交通安全防止活動での啓発活動の様子は、コロナ禍で数年実施してきませんでしたが、今年度から再開をいたしました。場所は、道の駅村田から交通安全協会村田支部、大河原警察署の皆さん、道の駅に来た一般の方々に交通安全を呼びかけておりました。当日は曇り空でありましたが、気温が高くジメジメした天気で少し動くだけでも汗ばみましたが、熱中症に気をつけながら啓発活動も無事終了し、ほっといたしました。

また、高齢者の世帯訪問の取組についてですが、先にちょっとご説明したように、母の会は女性防火クラブと兼務していることから、11 月の秋季火災予防運動期間中の火災予防啓発活動、通称かまど検査というそうですね。そこと併せて実施していて、大変賑やかに盛大にやっているそうです。1 組 3 人から 4 人程度でリストバンド型反射材、啓発のチラシを配布していますが枚数が足りなくて、毎年輪番にもらっていない人を決めながら、そういう人たちを優先にして配布し、頑張っておりますということです。

それから、警察署と母の会の皆さんで、交通安全教室のいろいろな道路横断事故防止の特効薬としてこれを掲げてやっているそうです。「と」通り慣れた道こそ油断は禁物、「つ」通院は遠回りでも横断歩道を渡る、「こ」声に出して左右の安全確認、「う」右折や左折する車にも気をつけて、「や」夜間の外出は反射材等を身に着けて、「く」車の直前直後は渡らない、といった注意点について、警察署署員の方々と一緒に呼びかけ、力を入れているところでございます。

次に運転免許自主返納のお話ですけれども、町の事業についてちょっと紹介しますと、町では平成 30 年 4 月 1 日から様々な理由で全ての運転免許を自主的に返納された方に対して、村田町デマンド型乗り合いタクシー「くらりん号」の回数券を交付しているそうです。令和元年度は 34 件の申請があり、それ以降は少々減少傾向にありましたが、昨年度は増加しているそうです。

次にヘルメット購入の助成金についてお話をいたします。令和 5 年度 10 月 1 日から自転車用ヘルメットの着用を促進して交通事故の防止を図るために、自転車用のヘルメットを購入した町民に対して、購入費の 2 分の 1 の額上限額 2,000 円を助成しているそうです。

令和 5 年度の申請件数は 11 件、補助対象人数は 15 人、令和 6 年度の申請件数は 4 人と補助対象人数は 5 人となっております。そろそろ最後になりますけれども、これからの私たちの活動の課題としては、村田町交通安全側の会連合会の会員の担い手不足が挙げられるそうです。

これは当会だけの課題ではなく、多くのところで課題になっているかと思います。2 点目は、運転免許自主返納の促進です。買い物、家族の送迎、通院などの生活に直結する目的で運転する方や、まだ運転できるという方が多く、自主返納をためらう方もおり、課題となっております。

3 点目は、自転車用のヘルメットの着用の推進です。ヘルメットの着用は努力義務には現在宮城県はなっておりますけれども、ヘルメットを着用していない方がまだまだ多いので、これからも声がけをして頑張りたいと思います。これらの課題に向けて、以下 3 点に取り組んでまいります。

1 点目は、関係団体交通安全協会村田支部等や老人クラブとの連携を図る。2 点目は、町の運転免許自主返納支援事業や自転車用のヘルメット購入助成事業の普及啓発、3 つ目に「交通安全は茶の間から」を基本に安全運動を呼びかけて行い、これからも会員は減っても明るく元気に笑顔で地域の命を守るために目標をこの 3 つに絞って、笑顔で今後も元気に継続をしてまいります。

ご清聴ありがとうございました。以上でございます。代理で発表して抜けたところもあるかと思いますけれども、頑張っている村田町に対していろいろご指導いただければ幸いです。ありがとうございました。

山形県交通安全母の会連合会　副会長

菅野　明日香

皆さん、こんにちは。山形県から参りました山形県交通安全母の会連合会副会長の菅野明日香と申します。よろしくお願いします。本日は、私が会長を務めます川西町交通安全母の会の活動を発表させていただきます。

川西町は山形県南部の 3 市 5 町から成る置賜地域の真ん中に位置しております。人口約 1 万 3000 人、約 4900 世帯 154 の自治会からできております。川西町交通安全母の会は 154 自治会から令和 7 年度は 203 名の評議員、つまり母の会をお手伝いしていただく方を選出していただいております。

その上に 23 名の理事役員を置き活動しております。高齢化や担い手不足など様々な課題があり、そのため町民の居住者をもって組織とすると規約改正を行いまして、評議員につきましては女性だけでなく男性の方にも参加していただいております。来年には設立 60 周年を迎えます。これもひとえに町民の皆様のご理解とご支援の賜物です。

幼児交通安全教室について紹介いたします。親子で一緒に交通安全を学ぶ機会を全国に先駆けて昭和 46 年に山形県で発足したのが「かもしかクラブ」です。カモシカは親子愛に優れ、また山形県の天然記念物ということでこの名称が付けられました。川西町では 5 月から 2 月まで毎月一回、町内 5 か所の幼児施設で開催しております。令和 7 年度は、年長年中年少の児童 216 名が参加しております。晴れている日はなるべく歩行訓練を実施しておりますので、保護者の方も共に参加していただけるように協力をお願いしております。大人が子供の手首をつなぐ「かもしかつなぎ」と「ストップの約束」を繰り返し指導しております。

5 月のかもしかクラブ入会式において幼児板を贈呈しております。ドライバーに子供がいるので気をつけて運転をお願いしますと注意喚起を促すために、自宅敷地内でドライバーに見える位置に設置していただいております。私自身も幼児版を見かけると、より一層の安全運転を心がけています。

毎年 6 月下旬に年長児親子で町内の道路を歩きながら、交通ルールやマナーを習得し、交通安全に心がけ、交通事故から身を守ろうとする態度を育てることを目的として、かもしかクラブ親子歩行ラリー大会を開催しております。約 2 キロのコース内に 3 箇所のチェックポイントを設けて、親子で考えながら歩行してもらいます。令和 7 年度は 77 組の年長児親子に参加いただきました。警察署、消防署、自衛隊、町内事業所の協力のもと、働く車の展示や歩行シミュレーターの体験などもあり、毎年好評をいただいております。交通安全教室について紹介いたします。川西町では、世帯訪問の代わりに町内 44 か所で開催されている「百歳体操」の会場に出向き、町内の交通安全の状況など 15 分程度お話しさせていただいております。令和 7 年度は 7 月 23 日から 12 月 3 日までの予定で訪問しております。また、各地区交流センターの地域協力を得て、高齢者モデル事業、交通安全教室を開催させていただいております。運転シミュレーターの体験、夜光反射材の効果的な使い方などを紹介しております。また、以前母の会の理事を務められた方がご厚意でオープニングセレモニーとしてフルート演奏で盛り上げてくださります。参加していただく方の楽しみの一つになっております。高齢化率 41.3%の町ですので、高齢者の交通安全の意識向上を目指しております。

オリジナルダリア反射ストラップを紹介いたします。川西町の条例で町の花がダリアとなっているため、本日はダリアと呼ばせていただきます。以前は既成のキャラクターデザインの夜光反射材を配布しておりましたが、高齢者からは孫につけてあげたい自分には似合わない、つけづらいといった声をいただきました。そこで、町の花であるダリアなら、各世代、どなたでも活用していただけるのではと理事会で提案がありましたので、令和 2 年度から実際にダリア園に咲いている花の写真を用いまして作成いたしました。新入学児童や各種交

通安全教室などで配布し、大変好評をいただいております。

最後に、川西町では平成 29 年 8 月 20 日から昨日 11 月 10 日までで 3005 日、8 年 2 か月 22 日、交通死亡事故 0 の日を継続しております。山形県で一番長く継続しております。数字が全てではありませんが、交通安全に対するモチベーションアップになっております。今後も町民の皆様のご理解とご協力を賜りながら、幼児から高齢者まで交通安全の意識向上を目指し、目に見える活動を行ってまいります。

ご清聴ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授

稲垣具志

稲垣先生：東京都立大学の稲垣でございます。ここからは意見交換会のコーディネーターということで、大変恐縮ながら壇上に座らせていただいております。そういうわけで意見交換会の場とさせていただきたいと思います。東北のいろんな地域からいらっしゃっていて、ご発表いただきましたけれども、まず皆様それぞれの地域での活動を振りかえられて、そこからここってどういうことですか？といった詳しく聞きたいことについてご発言いただきたいですし、逆にうちではこういうことやっていて効果的かもしれませんよ、みたいなアドバイスもあれば教えていただければと思います。年に一回しかない機会ですので、ぜひとも精力的にご発言いただければと思います。僕、聞きたいことは山ほどありますので、皆さんからの発言がなければ僕がしゃべり続けることになりますが、今の段階で何かお話しされたい方がいらっしゃいます。

●：東北圏の方の活動も大変勉強になりました。ありがとうございました。特に最後の山形県の川西町のお話でダリアを作成されたとお伺いしました。作るにはどれくらいのお金がかかったとか、業者さんとのやり取りとかを具体的に教えていただけますでしょうか。お願いいたします。

●：実際の金額は正確には分からないのですが、反射材を作ってくださる会社がありまして、川西町は 2000 個単位で注文をさせていただいているのですが、10 万円前後だったと思います。すいません、ちょっと正確な金額ではないですけれども、このくらいで 2 年に一回くらいずつ新しく作り直しているところです。

●：はじめに 10 万円でしょうか、2 年ごとに 10 万円で 2000 個でしょうか。

●：版代がかからなくなりますけど、版を保存する期間が会社さんの方で決まっておりまして、それを過ぎるとまた新しく版をつくり直してという形になるので、金額はその都度変わってきます。

稲垣先生：ありがとうございます。かなり実務的なお話がありまして、こういうことって重要ですよね。それどんな業者があるのですか？とか缶バッジ専門の制作業者とかもあったりしますけれども。最近インターネットで PDF とか版を入稿して、あとは個数注文して発注もできたりしますけど、発注し続けているのなら版はずっと残しておいてほしい気もしますけれども、業者のいろいろなご都合があろうかと思いますけれども、何か啓発グッズのこういう政策とか、そういったようなことで何かアイデアをお持ちの方とかいらっしゃいますか。

●：啓発というか、私たちの間では街頭監視をこれからの年末に保育園の方と一緒にやっているのですが、保育園の方たちとお母さんとお父さんたちと一緒にお餅をついて小さい袋に入れて、私たちは母の会はゆで卵を袋に入れて啓発のシールも一緒に入れていましたが、衛生面の問題がありますのでキャンディーにしました。それを年末の交通安全週間の時に、警察の方や交通安全協会の方と一緒に歩道に出てお配りしております。その時サンタクロースの恰好や目立つようなジャンバーを着て、そういうふうにして店番というのも大事だと思いますので、それをいたしておりました。

稲垣先生：どうもありがとうございます。僕のメモに、お餅、ゆで卵、キャンディー、サンタクロースって書いてあるわけですけれども、私たちってすごく交通安全のことも命をかけて活動しているので、すごく関心が高いわけですが、一般の方はそこまで命にかかわることなのに、交通安全というところに心がなかなか向いてくれない。みんな忙しくされているところもあろうかと思いますが、そういった皆さんの気が引けるようないろいろなアイデアといったものを集めてやりたいなと。サンタクロースの帽子とか似合いそうですよね。すてきだと思い

ますよ。ほかに何かございますか。啓発の現場でこういったようなアイデアがありますとか、皆様と共有したいことなどございますか？

●：山形県では県内を通して各地域に反射材として靴に貼る用の光る反射材をお渡しして啓発活動に当たっていますけれども、他の県の方もお渡ししている反射材などがありましたらお聞きしたいです。昔から山形県では靴の裏のかかとに貼っていたのですが、すぐ剥がれるため不評だったので、他の県ではどうしているのか気になりました。

稲垣先生：靴のかかとの部分に陸上競技のトラックみたいな形をした横長の銀色のやつですね。あれね、実は警視庁の警察官は全員つけています。警察官がこれ足に付けるというぐらいなので、相当意味のあるものなのかなと思って。だから、警視庁の警察官の後、一緒に階段を上っていると、目立って仕方がなくて。

いかがですか。他の県の方、靴の反射材について何かありますか？

●：2、3 年前まで靴の反射材を秋田県の中で配布してもらいましたが、また靴かよといった反応をされて、それで今度は県に要請して手首に巻くリストバンドにしてもらいました。今度またそういう反応をされて、靴とかリストバンドばかりじゃなくて、病院とか介護用の買い物バッグの持ち手につけるといいよという形でやっていましたがそろそろ一周回って靴にするかを考えているところです。秋田は雪国なので夏は靴でも大丈夫ですが、冬は長靴なので隠れてしまうのでズボンを中に入れて見えるようにと指導しています。だからリストバンドと靴を交代でやった方がいいかなと思っております。以上です。

稲垣先生：ありがとうございます。飽きられてしまうのでリストバンドとバックにつけるので、ローテーションを組むみたいな。積雪地ならではの考え方というのは、僕はちょっと雪国で生活したことがないので、長靴の上のところに入るというアイデアも確かにそうだなという青森の方々もそんな感じですかね。他の県の方はいかがでしょうか。

●：十和田市では、やっぱり回って歩くときに靴のかかとのところに貼って使ってくださいって指導をしますが、それだけではなくて、杖やかばんの持ち手の部分などいろいろな部分に付けてくださいと指導したりしています。

稲垣先生：ありがとうございます。杖もそうですね。視覚障害の方が使われる白状は反射するようになっていますけれども、そこに鈴とかもつけているような人がいて、最近は熊が怖いですから。ほかにいかがですか。

●：うちの方は県全体ではしていなくて宮古市でしていることなのですが、高齢者訪問でお配りしている配布物が年々高くなっていると。数多くは買えないのですがエコバッグは人気があるので、また次もお願いねという地域の人たちが結構あります。だから、なるべく内閣府さんから値段を上げないでと言ってください。

稲垣先生：やはりお金がかかるからコストのところはシビアになってきますので、県や町の方から予算を付けてくださいと。どうしてもやはり円安になると影響がこんなところにも出ているのかな。僕、きのう青森入りしましたが、ラーメン食べたくて傘を差しながら徘徊していました。締めのラーメンを探して。もちろん歩いていますからね。そのとき僕、やっぱりエコバッグですよ。出張先ではすごく使えます。だから、そういう高齢の方とかを結構今想定されている方が多いのではないかと思うのですが、僕のような非高齢じゃない人にとっても、エコバッグというのは結構確かにいいですね。ありがとうございます。先ほど手を挙げられていますね。ではお願いします。

●：川西町の事例の中で幼児板というものがありますけれども、もう少し具体的な使い方といいますか、実際にどうやって使っているのかというのを少しお伺いしたいなと思いました。というのも、午前中の村山先生からの事例発表でありました、生活道路の中でスピードを落とさせる一つの工夫として、やはりこの幼児板というの

も使えるものだと思ったので、それがこの事例がどうやって使われているのかがよくわかるといいと思ったので質問いたしました。よろしくお願いいたします。
●：町内の幼児施設さんに入園された方、かもしかクラブに入会された方に幼児板という形でお渡ししておりまして、児童のお宅では自宅敷地内の道路から見える場所、大体そこの上の方に付けていただくとか、運転手さんから見える位置に日曜大工さんが取りつけてくださったりしています。
●：ドライバーとして走っていると見える場所、標識やミラーと同じようなイメージでしょうか。値段は結構高いのですか？
●：そうですね。「飛び出しぼうや」のような感じで立てかけてもらっています。値段は高いと思いますが事務局が不在のため詳細までは分からないです。すみません。
稲垣先生：皆さんかなり関心が高いようで、僕もこれは皆さんが手を挙げなければ僕もききたかったところになりますけれども。自分の敷地内に貼っていただけるという、それはいいですね。道路使用許可のようなそういう手続きは必要ないわけですよね。それはお渡しするときに、あなたの家の前を車が通るときにドライバーからよく見えるように掲示してくださいというふうにご指導なさっているわけですね。そこは重要なところですね。外で風雨にさらされているようなところなので、ちゃんとしたしっかりとしたものをおつくりになっているので、ある程度コストはかかるかもしれませんが、反射しないですか。夜になってくると少し見えづらいところがあるかもしれないけれども、何か事故防止効果のようなものを実感されていますか。
●：川西町では児童生徒による交通人身事故は 2 年、3 年近く起きていないとおっしゃっていました。高齢者同士の事故は多いのですけれども、子供が対象となるのは起きてないです。
稲垣先生：僕も大変勉強になりました。僕は来週松山に行きますので、松山で言いふらしたいと思います。ほかいかがですか？
●：西川町は車で通るとタスキがけの反射材でマラソンしている人とか、ウォーキングしている人を見かけるのですけれども、車からは簡単に見つけることができて、これはいいなと思っています。町でこのタスキがけを案内してくれているので使っている方を見かけてとてもいいです。
稲垣先生：ありがとうございます。たすきがけの反射材ということで、特にタスキのような形でかけるとよく目立ちますね。斜めになりますので、ジョギングしているとそれ揺れているから余計見えるのかもしれないですけれども。結構反射材だけをもらっても、それを行動につなげないといけない。それに効果があるということをいかに知らせるのかというところも重要かもしれないですかね。物をもらっても、リビングのテーブルの上に置いてあるとか、もったいないので本当に貼るという行動までいかにつなげていくかというところのモチベーションを高めるというようなことも重要かなというふうに皆様の話を聞いて思いました。ありがとうございます。すごい。今日は反射材がこんなに盛り上がるとはですけれども、確かに重要ですね。これからの季節の夜は暗くなるのが早いですからね。ほかはいかがですか。お願いいたします。
●：渡す時のコツというと失礼かもしれないですが、イベントとかでお渡しするときに、自分のためにつけてくださいというふうに話すと、自分のためならいらないとか、孫に上げるとか言われたりしますが、皆さんがつけてくだされば、ドライバーが助かりますというふうに言うと、その場でかばんにつけてくださったり、帽子に貼ってくださったり、いろいろしてくださいますので参考にしていただければと思います。
稲垣先生：ありがとうございます。誰のためにつけるの？というようなところで。利己的な観点ではいいやとなるけれども、他人の利益となったときに意思が変わる、行動が変わってくるという方いらっしゃるかもしれないです。確かにそうですね。利他的な話に持っていくというようなところで勉強になります。ありがとうございます。

ぜひとも実践していただきたいと思います。

すごく聞きたいことがありまして、上小阿仁村がもしかしたら日本一の高齢化率を誇るのではないかというふうにおっしゃっていたのがすごく印象的なのですが、ほかの団体を巻き込んでともに取り組もうとしているというところがすごいなと思いました。やはり人口が減っていっているとか、担い手不足といったようなところがある中で他の団体も巻き込んでいく体制づくりというのは、恐らくそちらの村だけじゃなくて、今ここにいらっしゃる全地域が必要としているノウハウだと思うのですけれども、このあたりというのは巻き込んでいく作戦というか、その辺というのはもともとつながりが強いというような素地があるということもあるかもしれませんが、ちょっとその辺の交通安全のことに関して、いろいろな人を巻き込んでいくやり方は何か工夫されていることとかございますか。

●：ありがとうございます。多分、潜在的にそういうつながりがあると思いますけれども、例えば村の中心である役場のあるところに集まってくださいではなくて、私たちの方から今年はそこの地区に行きますよと。警察署にお願いして、一緒に指導に来てくださいと。そういう出前的なそういうのを心がけて、なかなか 1 カ所に集まってくださいというのは無理なので、こちらから行くようにしています。小中学校さんにも一緒にお願いしますと、こちらからちょっと声をかけながら、頭を下げながら、学校としても授業というものがあるので、なかなか折り合いがつかなかったりするのですが、一校しかないのでやりやすいという差はありました。よろしいですか？

稲垣先生：いやもうめちゃくちゃよろしいです。ありがとうございます。かなりフットワークを軽くされて、待っていてもいらっしゃらない。ここに集まってくださいと言ってもいらっしゃらない。ではこっちから行こうよと。今、出前というお話をされていましたけれども、移動販売とかもすごくいいですよね。スーパーへなかなか行けない方もお買い物ができるような、そんないわばプッシュ型というか、もうこれは来られたらまず受け入れてみよう。そこで何が語られるかもすごく重要ですね。その人その人に応じた重要なことをおっしゃっているから、確かにそれは私たちも取り組みの一つとして入れた方がいいかなというふうに考えられているのかなというふうに思いました。今のお話を聞かれて、何か重ねて質問をされたいかどうか確認されたい方とかいらっしゃいますか。他の団体をいかに巻き込んでいくかというところですけれども。もしくは、何かうちの地域ではこういうような感じでほかの団体とのつながりをつくっていますよとか、そういうことを教えてくださる方とかいらっしゃいます？

●：先ほど村田町のお話をさせていただきましたけれども、他の団体といっても、そんなに簡単に呼び込むというのは難しいですね。60 歳定年退職した後も 70 代、また次の職場を求めて、やはり今こういう時代ですからね、うんと言ってくれない。お手伝いしたいのはやまやまですけれども、もう少し働かないといけないのであと数年待ってくださいというのが実態です。宮城県の私の地域では。

それで私は 10 年近く前に高校生が RV 車の事故で死亡して、大事故が発生してすぐに私たちは立ち上がりました。それで、近隣の高校生も仙台のスポーツで有名な育英高校の生徒でしたけれども、後は今まだ不自由な体で頑張っている生徒もいますけれども。私の地元の学校は男女共学の学校で宮城県一のマンモス校ですけれども、私たちが立ち上げて、自転車のマナーの悪い 2 人乗り、3 人乗り、それから右側通行左側通行を守らない。道路に広がって、横列になって自転車に乗ったりする、そういう子供たちが多くて、地域からのいろいろな苦情が出ていたのですけれども、交通安全委員会を作ろうって誰かが発言して、生徒会で委員会をつくったのですね。それから、各学年に 10 人ずつ選んでくださって、合計 30 人が交代で毎月一回、校門に立って交通安全活動をするようになりました。自分たちでパンフレットをつくったり、私たちと一緒に現在も続けておりまして、今ちょうど自転車通学のヘルメットをかぶる生徒を何とか増やそうと言って、子

供たちも頑張っていろいろな町の行事、出発式とかいろいろな大きな町の行事でも交通安全に関わったりしてくれて、若者が立ち上がってくれたおかげで、80 過ぎた老体でも笑顔でいられるようになっておりますので、高校生、大学生を巻き込むのも一つの方法じゃないかなと思って、参考までにお話しさせていただきました。
稲垣先生：ありがとうございました。特に自転車の安全利用推進ということを考えたときに、ある属性を指さして、あいつが悪いという風潮がありますよね。例えば、チャイルドシートをつけている最近大型化している電動アシストをつけた自転車だとか、いっときなんかすごく言われていたのが、何とか eats なんていって四角い箱を背負って走っているフードデリバリーだとか、いろいろ言われていますけれども、どんな人でも違反している。4 月から青切符が導入されるというので、どうなるのだろうみたいな話題も今挙がっているところで、今おっしゃったことというのは非常に重要だと思っていて、その立場の人の中にその安全啓発をする種をつくる、そこに植えるというようなことというのは非常に大きな効果があると思います。啓発をしたい相手と同じ立場の人にその交通安全の推進を担わせる。ひょっとしたら一人か二人はいるのではないかと。高校生の中でも、自転車の運転が荒い子もいれば、そういう人たちをどうにかしろよと思っている子もいる。うちの大学もそうです。先生の大学もそうですよね。その種を育てて、芽を吹き出しそうな人をいかに見つけていくのかというのも一つの作戦かもしれないですね。なかなかみんなお忙しくて、一緒に私たちと同じ活動ができないかもしれないけれども、その人たちの文脈で何か伝えられる言葉もあるかもしれないというようなところなのかなと思って、今すごく参考になるお話だなと思って聞いておりました。

高校生が主体となって高校生に意見するというのは、いい事例が金沢に一つあります。石川県の金沢でかなり道路整備とも連携していますね。自転車ここ走りなさいというマークが最近道路についてくるようになってきましたね。あれに沿って自転車に乗ることがどれだけ重要なのかということを高校の生徒の目線で語ってもらうといったところも確かに重要かなというふうに思いますけど。フードデリバリーなんかも東京はすごくひどかった時期があって、やはりフードデリバリー協会に委ねましたね。東京都にしても、警視庁にしても。そういったような、例えば子育て関係だったら保育園とか、そこにちょっと何か考えてくださいというようなことをちょっと投げかけるのもありかもしれないですね。ちょっとしゃべりすぎました。ありがとうございます。他にありますか？こちらに関連しても関連しなくても大丈夫です。
●：岩手県から 3 人参加させていただいております。各拠点支部で活動をしている方たちの中身は、だいたい私たちも同じですけれども、岩手県では年間事業の中に高齢者のお宅訪問というのと、それから 3 世代交流事業というもの、それから高齢者の安全教室の 3 本柱を立てて、岩手県 4 つのグループに分かれておりますが、そこに補助金を出してこの事業を毎年一つ実施するということをやっております。私の地区では、昨年度は 92 名の園児さんを抱えている園を訪問いたしまして、園児、父兄、そして高齢者老人クラブもかなりの人数で講習会をいたしました。やはり講習というのは早いうちに意識づけさせておくのが一番の手っ取り早い活動ではないかなと。やはり小さいころからの安全教育をやっていれば、小中高、そして高齢者になっても多分それが芽生えてくるのではないかなということを感じております。

ちょっとお話飛びますけれども、私たちは街頭に立ってそういった安全教室活動をするだけではなく、母の会の勉強をしようということで、昨年もちょっと話をさせていただきましたけれども。まず私たちが交通安全のことをまず勉強しなければならない。そして、今年度はちなみに心肺蘇生を勉強いたしました。こういうことからですね、1 年に一回まず私たち自ら勉強して、地域の皆さんにこれを広げていけばいいのかなということで、それをちょっとお話しさせていただきましたけれども、一番人気のあるのは岩手県の自衛隊を訪問しました。安心安全活動をしているということで、これは大型バスの定員がいっぱいになるくらいすごく好評でして、また

ぜひ自衛隊に訪問する事業を組んでくださいというリクエストをいただいておりますけれども、毎年みんなで話し合って、全て無料で実施しております。参考までにと思いました。
稲垣先生：ありがとうございます。自衛隊訪問が気になって仕方ないのですが、これが交通安全とリンクしているのですか。自衛隊訪問すれば何か交通安全に関連している部分はありますか？
●：安心安全というものが共通部分だと思って、私たちはこういう交通安全に従事しています。自衛隊の方々が地域の皆さんの安全をこのようにやっていますということで、中の施設の案内や戦車にも乗せてもらったりして。中身は違いますけど地域の問題という部分では同じだと思います。自衛隊訪問が今までで一番評判がよかったです。
稲垣先生：ありがとうございます。防災の話とか、そんなようなところも絡んでくるのかなと。やはり人間の価値観というのは多様ですので、どこで琴線に触れるかわからないですね。自衛隊から入ってきて、いつの間にか交通安全どっぷりつかっているとか、どこがきっかけになるかわからないので、確かにおっしゃるように交通安全もあれば、さっき「いかのおすし」があったように、これは防犯ですよね。
　あるいは自衛隊の話とかなってくると、防災の話とか絡んでくると思いますので、こういったところで自分の命にかかわってくるようなところで、少し関心の高いところから入っていただいて、この世界入っていただくというようなところも何かいいきっかけづくりにもなるのかなというふうに思いました。
　今のお話を聞いて、何か御質問されたいこととかありますか。うちの自衛隊の方だとか、そういうのは難しいかもしれませんけれども。僕が日本大学にいたときには、駐屯地が近くにあって、落下傘がふってきて、夏になったら花火が大人気でしたよね。先ほど御紹介いただいた中の続きで申し訳ないのですが、三世代の教室とおっしゃっていましたよね。3 本の柱があって、高齢者訪問と三世代交流があって高齢者安全教室があって、2 つ目の三世代交流というのが気になったのですが、具体的にどのようなことをなさっているのですか。
●：三世代交流ですけれども、幼児に合ったようにと思いながら、長い時間やると飽きてしまうので、警察官の方のお力をお借りして、あと安全協会の器具をもって来ていただいて、「渡り上手くん」っていいますが、そういうのを親子で渡ったり、おじいさん、おばあさんと一緒に手をつないで渡ったり、飛び出したりすると音が鳴ったりというのがみなさんも経験あるかと思いますけれども、そこに高齢者老人クラブの方たちも巻き込んで、あとラクーターでいらっしゃる方もいますので、警察官の方から安全な使い方なんかも指導していただいたりということで、皆さんに反射材つきの手袋やストラップをあげたりして喜ばれております。
稲垣先生：ありがとうございます。僕まだ孫がいないのでよくわからないのですけれども、やっぱり何とか孫ができると、孫の言うことを聞いちゃうものですかね。何か伝わってきます。いろいろな関係があるかとは思うのですけれども、結構世代を超えて、実はそれは幼児に対する未就学児の方に対する教育かもしれないけれども、それを通してご家庭に帰られたら高齢者対策にもなるとか、そういったようなことにもつながるかもしれないなというのは確かに感じますね。
●：皆さんにお聞きしたいのですけれども、午前中の稲垣先生のお話の中で、その通りだなと思ったのは子供に対する親の意識の変化ということで、子供に安全教育をしなきゃいけないということと一緒に、自分の運転も気をつけなきゃいけないというふうに意識が変化したというところですごく共感して、この活動の中で会長をしている自分が、チャイルドシートにもシートベルトをかけて運転をしています。ただ、現役の保護者に言っているのは、私を含めて数名で学校から無理やり 2 名出してくださいということでお願いして出してもらっている現状があるのですが、運転研修会があっても参加率が非常に少ないという中で、現役の保護者、特に新

入生とかに啓発するような研修会とか活動があれば教えていただきたいなと思います。
稲垣先生：非常に具体的ですばらしい御質問いただきまして、ありがとうございます。現役の世代や親に対する意識啓発、何だったらそういう方々がこういう活動に入っていただけるといったような、先ほどの村山先生のお話の中でも、後継者をいかに確保するのか、育てるのかという話がありましたが、何か具体的なヒントとかアドバイスをいただけそうな方いらっしゃいますか？
●：実際、私は合併して市を立ち上げたときに、地区でそれぞれ体制が変わっていまして、学校関係、保育関係が母の会の主流になっていました。西岸地区、田沢湖地区が婦人会や、母の会を立ち上げました。
合併したときに私が困ったのは、学校関係の方が 1 年で交代されることです。これはまずいなと思って、地区を分けて 4 カ所にそれぞれの母の会を立ち上げほしいとお願いしました。市役所の方からの推薦や、安全協会さんの推薦をいただいてやっておりました。学校さんの PTA はなくしたくないので OB を選出して訪れからあなたの学校は抜けるけれども、母の会にそのまま残留してもらうように交渉をしまして、今のところ 3 人捕まえています。もう一人捕まえようかと思ったのですけれども、その人はどうしても介護関係で難しいということでありました。警察の方でも安心アドバイザーをやめたら、母の会に加入してねとあちこち声をかけて、若い人がなかなかいないものですから。私が引退しても存続できるように頑張ります。以上です。
稲垣先生：すばらしいです。ありがとうございます。スカウトとリクルーティングで、今の就活のような言葉が思い浮かびましたけれども、ほかにございますか、若い方々の担い手づくりという観点での何か実績とかヒントとかアドバイスがあれば、どこも悩んでおられるところかもしれませんけれどもね。そうでなくても、啓発でもいいですよね。現役世代のパパママに対する啓発で何か工夫されているところがございますか。啓発でもいいですけれども。
●：うちの方では年 2 回、高齢者子育て世帯訪問しているのですがそれには警察署、交通指導隊、それから町内会連合会からも参加していただいて、うちの交通安全母の会の人たちとみんなで 8 グループくらいに分けて、町内を回っていますが、そのときに母の会は何をやっているのかという、意見が出たりします。そのときにもらった言葉が、母の会はこんなに一生懸命活動しているのだねというのを初めて言ってもらってすごくうれしかったという思いをしました。町内会とかいろんな人たちのコミュニティを考えてやれば、理解されて賛成してくれる人も出てくるのかなと思います。
稲垣先生：ありがとうございます。町にかかわる人たちはいろいろな立場の人たちがいるので、それをいかに巻き込むかということだと思うのですけれども、先ほど私は午前中のお話の中で二子玉川の話をしましたけれどもあれは町内会で、教職員の方、あと PTA の方が校外員って呼んでいるのですけれども、あと区、警視庁、高島屋があるのでその会社、東急電鉄、この人たちがみんな子供たちのことを考えている地域です。
　なので、そういうちょっと地域によって結構そういう関係がすごく深いのか薄いのかというのは確かにあるのかと思うのですけれども、ちょっとお住まいの地域でどうなのかというところを少し見ていただくと、仲間を増やしていく中で、先ほどのお話と近いところになるのかなとは思います。
●：東日本大震災で多数の人が母の会を脱退してしまいました。本当に市内だけで母の会に参加している方々は本当に少ない感じです。だから入る人たちもこれからも多分いないと思いますけれども、その辺がかわいそうという話です。
稲垣先生：先ほど平成の大合併の話が出ていて、時の政府は小泉政権ですかね、あのころだったかと記憶しておりますけれども、それで母の会が自治体ごとに組織されていたとなると、それまでの経緯がそれぞれあるのでなじまないとか、いろいろと課題を抱えているところがあるのかなというようなことで、きょうは内閣府の

参事官補佐も来ておりますので、ぜひ全国の状況を聞いて、いろいろと情報整理なさっていくことになるのかなと思ったところでございます。

■講評

私の方からまことに僭越ながら講評ということですけれども、皆様方から出てきたいろいろな御意見とか新しい視点等々をちょっと整理させていただいて、私の講評とさせていただきたいと思いますけれども、やはり何回も思い出しても、反射材の話は頭から離れないなというようなところで、ちょっとお金がかかってしまうところがある中でも、やりくりしながら頑張りましょうねといったようなところだったかと思います。こういう反射材の業者が結構あって、インターネットとかで注文とかできたりしますので、周りちょっと得意な人を見つけて、デザインとか得意な人というのがいらっしゃると思うので、新しいすてきな手とってつけてみたいようなものをデザインするのもいいだろうというような話がございました。その中で、靴のかかとにつけるものだけじゃなくて、結構飽きられないような工夫ということで、鞄の持ち手であるだとか、リストバンドであるだとか、杖だとか、タスキ掛けにするとか、いろいろな実にいろいろなアイデアを出していただいたところでございます。

そういった中で、この幼児と描かれた、これを進呈するような式まで行われている、こういう何かみんなの集まりのところで、これはあなたに進呈しますというふうに何か渡されるという、こういうセレモニーが実はすごく重要ですよね。思い出にも残るし、何か託されたという気になる。何か契約を結んだような感じ。確かに家の前を通るドライバーに対する注意喚起に貢献できるかもしれないとか。何よりも自分の子供、孫を守れる可能性があるというところでいいお話しいただいたかな。お父さんが DIY で頑張ればいいというところをお話しされておりました。こういったものをお渡しするときのコツというのは、今のセレモニー的な話もあったけれども、ドライバーのためにつけてくださいといったような、渡し方もあるねと。確かに利己的なところじゃなくて、他人のために自分が起こすべき行動であるというような考え方をお持ちの方が、行動を変えてくださることもあり得るというところですね。

あと、仲間をいかにふやしていくのかというところで、ここに来てくださいというビラを配布してもなかなかいらっしゃらないということなのであれば、私たちが行きますのでそこで説明させてくださいという出前型で集落に行くというような話もすごく特徴的だったかと思います。

とはいっても、忙しくてなかなかそこには参加できないから待ってくださいみたいな実情もある中で、だったらでは学校関係だったら、もう高校生に対する啓発は高校生に任せるというようなアイデアもあるよねというようなお話もございましたね。交通安全委員会をやっていました、なんてかっこいいですよね。

これは多分、大学の推薦なんかに書けるようなレベルなのかなというようなところだと思います。そういった中で、岩手県の方で自衛隊の話とかも出ておりましたけれども、世代を超えた交流の中にいかに埋め込んでいくのかという。園児という早いうちにいかに安全の意識を植え付けるのか、ちゃんと身につけていただくのかというのは、これは僕も物すごく同意します。

実は、僕の講演の中で大人 13 人のうち二人できていませんでしたね。あれはどういう方か誤解を恐れずに言うと、帰国子女の方が一人です。もう一人が留学生です。このお二人はどちらも海外はヨーロッパ、アメリカではなくて東南アジアでした。さらにちゃんとしたというか、交通安全教育を受けていないのです。そういう人って、実は大人になって、ある程度の何か常識的な所作は身につけられても、車を見て自分は渡れるかどうかという判断できないです。

大人になっても大人になったら勝手にできるわけじゃなくて、幼児のときと義務教育課程の中で何を教えられるかによって、大人になっての行動選択が変わっていくよ、といったようなことが実はデータで示されていますね。

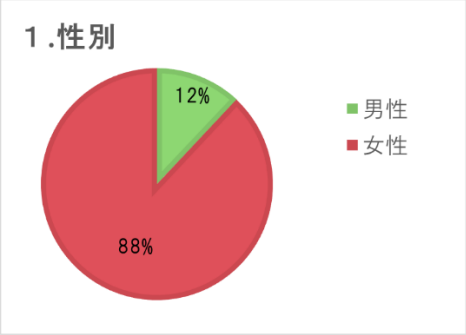
なので、この世代といったことを意識する、あるいは家庭の中でのライフステージの変化、例えばこれからうちの息子、娘は小学校入学する直前だ。何に気をつけなければならないだろうという子育ての観点での心配事が多々ありますよね。それは交通安全だけじゃないと思います。いろいろなヒヤリハットが起きてしまいますから、そのときにきちんと防犯とか安全のことをインストールするようなときを、虎視眈々と私たちは狙う必要があるかもしれないなというふうに思ったところです。

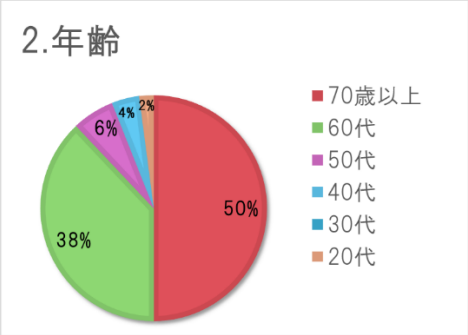
最後、現役の世代の親の方々にどうやって伝えたらいいのかなということがお話しされていましたが、少なくとも 3 名の方、いろいろと御示唆いただきましたので、この会終わった後、ぜひロビー活動をしていただきたいと思います。きょうは本当に朝から本当に貴重な時間を割いて御出席いただきまして、まことにありがとうございました。

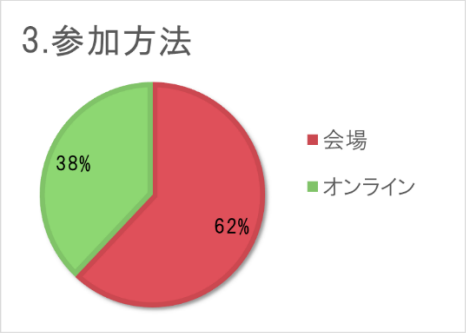
特に最後のこの意見交換会では、僕がコーディネーターを務めた中で一番発言数が多かった意見交換会だったかと思いますので、村山先生と一緒に、この後ちょっと東北に負けてられないということで焚きつけて頑張っていきたいと思います。何か月並みな発言ばかりになって大変恐縮でございますが、これで講評とさせていただきたいと思います。

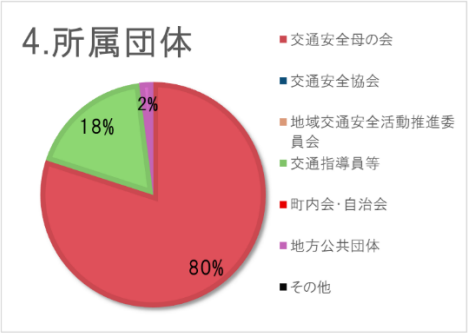
皆様、どうも意見交換会ありがとうございました。

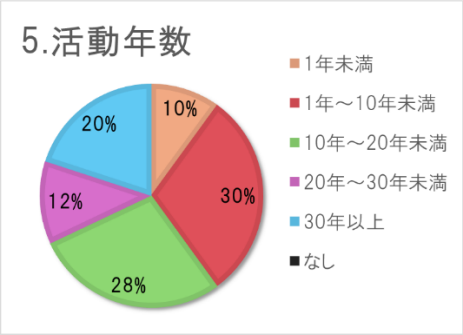
3.アンケート集計結果

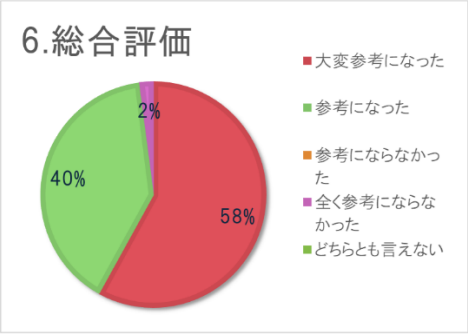

1.性別
12%
88%
男性
女性

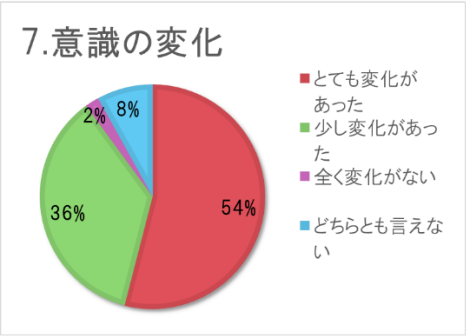

2.年齢
50%
38%
6%
4%
2%
70歳以上
60代
50代
40代
30代
20代

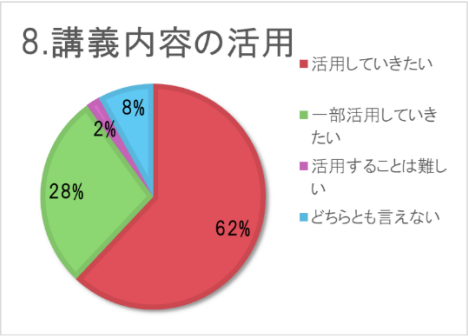

3.参加方法
38%
62%
会場
オンライン

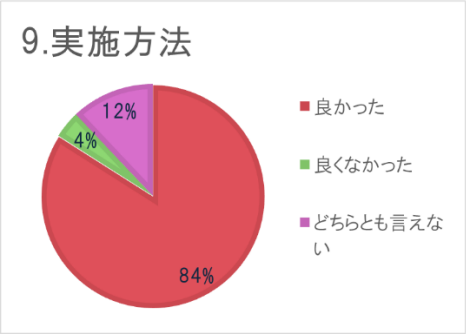

4.所属団体
2%
18%
80%
交通安全母の会
交通安全協会
地域交通安全活動推進委員会
交通指導員等
町内会･自治会
地方公共団体
その他

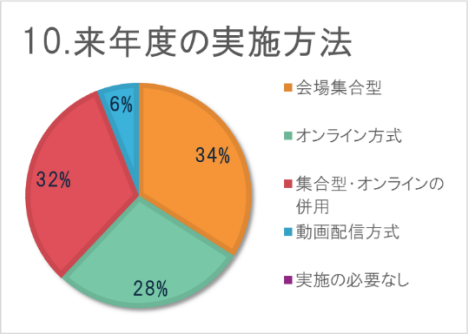

5.活動年数
10%
20%
12%
30%
28%
1年未満
1年～10年未満
10年～20年未満
20年～30年未満
30年以上
なし


6.総合評価
2%
40%
58%
大変参考になった
参考になった
参考にならなかった
全く参考にならなかった
どちらとも言えない


7.意識の変化
2%
8%
36%
54%
とても変化があった
少し変化があった
全く変化がない
どちらとも言えない


8.講義内容の活用
8%
2%
28%
62%
活用していきたい
一部活用していきたい
活用することは難しい
どちらとも言えない


9.実施方法
12%
4%
84%
良かった
良くなかった
どちらとも言えない


10.来年度の実施方法
6%
34%
32%
28%
会場集合型
オンライン方式
集合型･オンラインの併用
動画配信方式
実施の必要なし

問11.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について
・優先的にやるべき生活道路の交通安全対策・教育方法など
・交通ボランティアの重要性・必要性について高校生、大学生から知恵を借りたい
・交通安全母の会メインではなく、その他の団体等との連携があっても良いかと思います
・もう一度子供の目からの交通安全を聞きたいです。どちらの先生のお話には十分心に届きました。大変ありがとうございました
・日本以外の交通安全を知りたい
・赤ちゃん連れのパパママ、園児対象の交通安全のコツ
・学校教育立場の方にもお願いできればと思います
・高齢者の車に対する運転
・今日の子供の動行に興味がでました。次回もまたあれば聞きたいです
・活動に従事するボラが減少。無償ということがネック。どうすれば継続に繋げられる
・もう少し体験型の講習を取り上げて欲しいと思います
・少子化、高齢化にともなう交通ボランティアの対策方法は
・高齢化時代の交通安全について
・小学生の通学路での事故率は 1/3 で残りは生活道路。対応策を知りたい
・東京都市大学の稲垣先生の内容が豊富で、一時間では終わらなかったので、もう一度聞きたい
・高齢化にともない、母の会存続についてと若い人の加入について
・母の会の新規加入者の獲得。特徴のある啓発品の紹介

問12.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について
・東北 6 県の研修会での講習会や発表、意見交換が刺激となり交通ボランティアの重要性を改めて考えさせられました
・座席の名範も表記すれば助かります。交流会も多少の時間が必要ではないでしょうか
・運転する側、歩行側になっての具体的な事、何が危険かをわかりやすく勉強したい
・今までの講習で子供達の目線というのがすごく良かったです。老人、高齢者の方が重点的、あたりまえと思っていたので、新しい観点で面白かったです
・危険予測体験型トレーニングや飲酒体験等、どうしたら利用できるか知りたい
・交通指導の現場に立たれている方のご意見も
・交通安全等の講習会があれば参加したい
・少しでも交通安全に関心のある人に声かけをする
・他ブロックの内容(活動事例)が知りたいです
・地域の方々にも協力していただけているので大変ありがたいと思います
・市町村の役所での研修を得て必要に応じて出前講座を実施してほしい

問 13.その他、ご意見ご要望ご感想など
・村山先生の内容を今後取り入れて活動頑張りたいです
・活発な意見交換ができて勉強になりました。ありがとうございました

・時には全員で多少の観光も楽しみたいです。 要望：低価格のお弁当でよいから提供して下さい。食堂も捜すのが大変です
・大学生との共存で地域との共同がすごくうまく行っているので、できる事が沢山あり、うらやましいです。我らの地域にあてはめるにはどんな事からはじめればよいか、長年のボランティアでむずかしいことが沢山あります。一番は高齢者が60％以上で、少ない若年層に働きかけるにはどんなことをすればいいか悩みの種です
・運営にご尽力下さり、ありがとうございます
・長い間交通安全にかかわっていても勉強させていただくことが多いです。本日の講習をうけてまたひとつ勉強させられました。本日は参加させていただきありがとうございました
・高齢化、役員のなり手不足等、どこでもいっしょでそれはとっておいてということで、試行錯誤していかなくてはと思っています
・駐車場の案内がほしかった。会場がちがうのに案内はない。時間も 30 分ちがう連絡もない
・早く着いていたのに会場が地下の案内がなく、まごまごしました
・細部まで配慮いただきありがとうございました
・初参加しましたが、さまざまな交通に対する考えがあることがわかりました
・今回、昨年と参加。困ったことは昼食をとる店探し。限られた時間で大変。お弁当は無理でしょうか？開催時期を 10 月中にでは…。雪の時期を避けて欲しい
・講習会資料に当日参加者名簿があったらもう少し他県の人と交流しやすいと思いますので、検討をお願いします
・各県で開催することも大事だと思うが、参加するための日程スケジュールがタイトでとても大変だった
・資料がほしかったです
・講演の先生の言葉が早口過ぎて、理解するのが追い付かなかった。別途資料が紙ベースであればよかった。
・接続不良で全く聞き取れなかった。1 時間はあまりに長かった
・ズームのやり方をもう少しやりやすいようにしてはどうかと思います
・子供の交通事故防止の講演に対し、話の合間に笑いが入っているのが気になりました
・オンラインで参加していますが、講演の内容が良い。資料がほしいです。良く研究しています
・東北地方 6 県の発表では、共通する課題(会員の減少、人口減少、高齢化など)を抱えながらも試行錯誤しながら活動している姿に感動しました
・ウェブの配信が不具合で講演②が全く聞き取れなかった
・皆様の活躍うれしく思いました
・各市町村の貴重な意見や取り組みについて聞けて、参考になりました

4.写真

来賓挨拶　青森県

講演　稲垣先生

講演　村山先生

活動事例発表の様子

活動事例発表の様子

意見交換会